

八幡平リゾートご訪問



佐藤 総支配人

昭和56年 私立岩手高校卒業。同年 岩手県内総合リゾート企業に入社、スキー場開発、広報、取締役総支配人等を歴任。

平成30年 東北リゾートサービス(株)入社、副総支配人

令和元年 取締役総支配人

令和5年 代表取締役総支配人

当協議会が8月末に発行を予定している小冊子「SNOW 4号」では、環境への取り組み、特に地球温暖化防止への取り組みをテーマに考えています。そこで今回は地熱発電で100%の電力を賄っている八幡平リゾートを、環境への取り組みを進めているPOW JAPAN事務局長の高田様と一緒にご訪問し、総支配人の佐藤様にお話を伺いました。

岩尾専務)

本日はお忙しい中貴重なお時間をいただきありがとうございます。一面の銀世界、今年はまだまだ営業ができますね。

佐藤総支配人)

残念ながら、今度の日曜日までです。下倉スキー場のメインゲレンデには八幡平山頂へ通じる観光道路が通っています。夏の観光に必要なこの道路を開通させるためにはゲレンデを除雪せざるを得ませんので、今シーズンは3月23日で終了することになります。

岩尾専務)

それは残念ですね。今、下倉スキー場のお話が出ましたが、八幡平リゾートの沿革や概要についてお教えください。



佐藤総支配人)

当スキー場は、八幡平マウンテンホテルとパノラマスキー場、下倉スキー場で構成されています。1975年に国鉄がホテルとパノラマスキー場を開業し、1987年に松川温泉観光（株）が下倉スキー場を開業しました。その後、1993年に下倉スキー場を、2002年に八幡平マウンテンホテルとパノラマスキー場を当社が継承し現在に至っています。

岩尾専務)

規模や特徴はいかがでしょうか。

佐藤總支配人)

最長滑走距離2,700メートル、コース総延長18,000メートル、リフト7基で二つのスキー場を合わせた規模としては大きな部類に入ると思います。両スキー場のゲレンデはつながっていますが無料シャトルバスで7、8分ほどの距離です。パノラマスキー場はなだらかな緩斜面が続く初級者向きゲレンデ、下倉スキー場は中上級者向きゲレンデが多く、タイプは全く異なります。それぞれの特徴を生かして、パノラマスキー場はスキーやスノーボード以外にも楽しめるように、かなり長いマウンテンカートコースを整備するとともにウインターランドの雪あそびコンテンツを毎年充実させています。下倉スキー場はツリーランがウリで4つのエリアがあります。事故予防のため事前に届け出をしていただき、レベルチェック、コース説明をしています。インバウンドで申し上げれば、下倉スキー場来場者のほとんどがツリーランを楽しめています。また、ウエーブやボウルもあります。ウエーブは60連まで増やしました。ボウルの整備は手作業になりますしメンテナンスが大変ですが、それだけに他のスキー場にはあまりありませんので大変評判は良いです。





岩尾専務) _____

今シーズン、スキー場来場者はいかがでしょうか。

佐藤総支配人) _____

冬季の来場者は49,000人くらいで、宿泊は14,000人くらいです。

岩尾専務) _____

客層はどのあたりでしょうか、また、インバウンドはいかがですか。

佐藤総支配人) _____

東北と関東圏が多いですが、北海道、中部、関西、九州など全国からおいでいただいています。インバウンドは近年で急増しました。宿泊ですと昨シーズンの倍以上の6,700人、冬期宿泊者の約半数です。中上級者向けの下倉スキー場も同様で、昨シーズンの倍近くの3,000人が訪れており、そのほとんどがツリーランも楽しめています。ツリーランに限れば日本人よりも多いです。

岩尾専務) _____

インバウンドが急増した要因をどのように分析されていますか。

佐藤総支配人) _____

インバウンドの動向は、ニセコから白馬、そして全国へと広がってきているようです。有名になると価格も上がりりますし混雑もしてきます。また、日本にはニセコ等に限らず雪質の良いスキー場は全国にあるということが知れ渡ってきたようです。上級スキーヤーに人気のあるツリーランのできるスキー場はこの地域には三か所あります。これも強みだと思います。

岩尾専務) _____

インバウンド確保の取り組みをお聞かせください。

佐藤総支配人)

海外の旅行エージェントとのつながりを大切にしています。アメリカやアジア圏でお付き合いの長いエージェントからは毎シーズン増室のご依頼をいただいくようになりました。海外へのセールスは単独では大変ですから八幡平市や八幡平市ホテル協議会との合同で行っています。今季は台湾にセールスを行い、インバウンド集客の弱かった3月のスキー集客を伸ばすことができました。また、インバウンドのお客様のニーズに応えるべく、ホテルの客室改装や、レストランメニューの工夫などにも取り組んでおります。

岩尾専務)

このような調子でインバウンドが増加してくれば宿泊容量をオーバーしてしまいませんか。



佐藤総支配人)

これからもインバウンドは着実に増えてくると思います。当ホテルだけでは受け入れきれない日もありますが、同時期に近隣ホテルのインバウンドが増えたと聞きますので波及効果もあるようです。他方、近隣のペンションもオーナーの高齢化で廃業が増えてきています。地域を豊かにしていくためには行政などでも早急な受け皿対策が必要でしょう。

岩尾専務)

話は変わりますが、地球温暖化の影響でスキー場の営業日数は減少してきています。また、人材確保のためには通年雇用も欠かせません。そこで、各地のスキー場ではグリーンシーズンの活用が課題となっていますがいかがでしょうか。

佐藤総支配人)

ここ八幡平リゾートは十和田八幡平国立公園に隣接しており、また、日本百名山の岩手山と八幡平もあります。春は桜、地元では当たり前で特に注目もされていなかった「ドラゴンアイ」も最近注目され、インバウンドのキラーコンテンツになってきました。夏休みには家族連れを中心に多くの方々が訪れ、秋は紅葉観光が中心です。夏休み後の端境期にもインバウンドに周遊観光で来ていただけるようになりました。もともと通年型のリゾートですが、近年の人手不足で通年雇用のスタッフが十分に確保できないことが課題で、インバウンドの増加に合わせた外国人スタッフの雇用も行っていきたいと考えています。



岩尾専務)

ここで、取材のテーマである環境関係についてお尋ねいたします。地熱発電の活用の経緯についてお聞かせください。

佐藤総支配人)

1966年に日本で最初の地熱発電所として、松川地熱発電所ができました。地下から取り出した熱水の蒸気でタービンを回して発電しますが、その水蒸気には温泉成分が含まれていますので発電後の温水を温泉として供給いただいています。地熱発電所の建設をめぐっては地元の温泉街とのトラブルをよく耳にしますが、松川地熱発電所の近くには古くから「松川温泉」がありますが発電所の建設をめぐってのトラブルは聞いていません。2019年には松尾八幡平地熱発電所ができました。その時からこの地熱電力をホテルで活用しています。ただ、発電量に限界があるため、スキー場の分までは供給いただけませんでした。その後、2024年に安比地熱発電所ができ、事業所全ての電力を地熱電力に切り替えました。これまでも食材の地産地消などに取り組んできました。これは、地域の経済に貢献するだけではなく、長距離輸送が減りますのでCO₂の削減にも寄与します。身近なところからCO₂の削減に努めてきましたが、その一環として今年2月から全ての電力を地熱電力に切り替えたというわけです。

岩尾専務)

電力料金はいかがでしょうか。

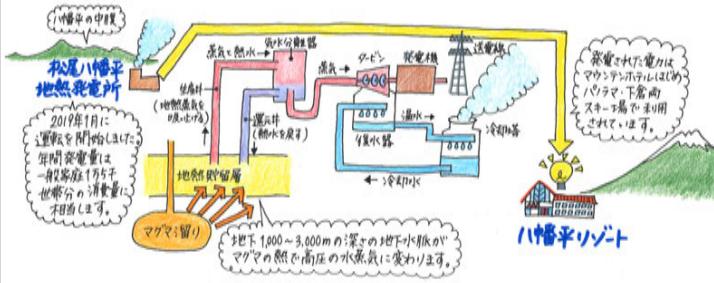
2025年 2月より 「一番平価ゾトで消費される電力のすべてが 地熱電力に移行します」

ハ幡平リゾートでは、施設内の電力源として、ハ幡平の中腹にある「木戸尾ハ幡平地熱発電所」(2019年発送電開始)で作られた地熱電力を取り入れています。ハ幡平マウンテンホテルでは、2021年から地熱由来電力を100%使用するゼロエミッションを採用して参りましたが、十和田ハ幡平公園に隣接するリゾート施設として、より環境に優しく持続可能な復興電力施設を目指すため、2025年2月よりリラマ・下倉両スキーリゾートの金針施設の電力を地熱電力に移行します。



地熱発電のメカニズム 地熱はこうして電気に変わる

地熱発電とは、高温高圧の地熱蒸気を地下数千メートルから取り出して、その圧力によりタービンを回して発電する仕組みです。地熱は温暖化の大きな要因である二酸化炭素をほとんど排出しない「クリーンエネルギー」として注目されています。地熱は地熱炉の中心に存在するマグマを資源としているため、半永久的に枯渇しません。持続可能な純国産エネルギーといえます。



佐藤総支配人)

以前の電力料金とあまり変わりません。地熱発電の初期コストは高いですが、自然から直接エネルギーをいただくため、ランニングコストは燃油価格などの影響を受けないはずです。ただ、大手電力会社の送電網を使っていますので、料金プランで大きな差を出すのは難しいようですが、同程度のコストであれば「環境に優しいエネルギーを使おう」ということです。当社は地熱電力100%を証明されたゼロエミプランを使わせていただいています。

高田事務局長)

素晴らしいですね。新しく再生可能エネルギーの発電所を開発し、エネルギーの地産地消を進める際には、地域の需要の有無がポイントになると思います。安定した需要がないとなかなか投資に踏み切れないでしょう。その点では、公共施設の他にスキー場という大口の需要があったことは大きかったと思います。

佐藤総支配人)

安比地熱発電所の開発に伴い、松尾八幡平地熱発電所と合わせた地熱電力の供給が始まり、自治体も出資した電力会社が立ち上りました。その電力会社の発足と同時に地熱発電に全面的に切り替えるということで一緒に進めてきました。

高田事務局長)

今後、ゼロカーボンの取り組みの一環として、エネルギーの地産地消を進め、エネルギーにかかるお金を地域内で循環させる仕組みを作っていくことが各地で求められますが、その座組に電力需要の大きいスキーチャンスが関わる可能性は大きいと思っています。八幡平リゾートさんの取り組みは、その先進事例ですね。

話は変わりますが、貴社のホームページに手書きで地熱発電などのイラストが掲載されています。とても分かり易かったです。発信まで丁寧にされていることは大事ですね。

佐藤総支配人)

当社の女性社員が描いています。ホテルのフロント係であり、日本山岳ガイド協会認定資格（ステージII）を持った登山ガイドでもあります。今回はマスコミの取材を受けるなど、想定以上の反響がありました。ホテルのロビーにも地熱発電の説明書きを掲示していますし、ホテルからは発電所から出る白い水蒸気が見えます。特に学びに关心のある年配のお客様には興味を持っていただいています。

岩尾専務)

最後になりますが、当協議会では国民の祝日としての雪の日制定を目指す運動を進めています。雪は気候変動の影響を大変大きく受けます。「雪」を通して国民的に環境問題を考える日があってもよいのではないかということです。御賛同、宜しくお願いします。本日はありがとうございました。